

### Forecast Highlights

● 7月の短期エネルギー見通し（STEO）は、2019年の新規コロナウイルス病（COVID-19）に関連する緩和と再開の取り組みが進化し続けているため、依然として不確実性が高い水準にあります。COVID-19のパンデミックに関連する経済活動の減少により、2020年にエネルギーの需給パターンに変化が生じました。液体燃料、天然ガス、電力、石炭、再生可能エネルギーを含むすべてのエネルギー源に関する米国エネルギー情報局（EIA）の見通し全体で不確実性が続いています。STEOは、IHS Markitによる米国のマクロ経済予測に基づいており、米国の国内総生産は、2020年の第3四半期から2021年まで上昇する前に、2020年前半に前年同期から6.4%減少したと想定しています。

● 6月のブレント原油スポット価格の平均は、40<sup>ドル</sup>/bであり、5月の平均から11<sup>ドル</sup>上昇し、複数年で最低月間平均価格となる4月から22<sup>ドル</sup>/b上昇した。6月に石油価格が上昇したのは、世界中の多くの地域で在宅注文が増加し始めたこと、および石油輸出国機構（OPEC）とパートナー国（OPEC プラス）による減産の結果として世界的な石油供給が減少したことによります。6月にOPEC プラスは、7月1日に緩和するように設定されていた最大削減幅の期間を7月まで延長したことを発表しました。EIAは、ブレントスポットの平均価格が2020年後半に41<sup>ドル</sup>/bになり、2021年には平均50<sup>ドル</sup>に上昇すると予測しています。先月のSTEOの予測よりもそれぞれ4<sup>ドル</sup>/bおよび2<sup>ドル</sup>/b高くなっています。

● 原油価格上昇の予測は、EIAが予想する2020年後半から2021年までの世界の石油在庫減少を反映しています。EIAが予測する高水準在庫と過剰生産能力は、今後数か月、価格上昇圧力を限定的にしますが、2021年に在庫は減少し、これらの価格上昇圧力が増していきます。EIAは、2020年上半期に世界の液体燃料在庫が670万b/dの割合で増加し、2020年下半期に330万b/dの割合で減少、2021年にはさらに110万b/d減少すると予測しています。

● EIAは、WTIスポット価格が2021年まで50<sup>ドル</sup>/b未満のままであると予測しているため、2020年と2021年に米国原油生産量の年間平均が低下すると予測しています。EIA見通しでは、米国原油生産量は平均2020年に1,160万b/d、2021年1,100万b/dとなっています。これらの水準は2019年の平均である1,220万b/dをそれぞれ60万b/dと120万b/d下回っています。EIAは、米国地方裁判所が7月6日にダコタアクセスパイプラインの一時的な閉鎖を命じたその前に、今月の予測を確定しました。パイプラインの運営者は、決定を保留するための動議を提出すると発表しました。

● EIAは、2020年の米国の液体燃料消費量が平均で1,830万b/d、2019年から210万b/d減少すると予測しています。米国の液体燃料消費量の減少は、製品によって異なります。2019年から2020年まで、EIAはジェット燃料消費量が31%減少し、ガソリンと蒸留燃料消費量が両方とも10%減少すると予測しています。減少は、旅行制限とCOVID-19感染緩和努力に関連する経済活動の減少を反映しています。EIAは、米国の液体燃料消費量の最大の減少がすでに発生しており、消費量は2020年の後半から2021年にかけて概して増加すると予測しています。EIAは、2021年の米国の液体燃料消費量は平均で1,990万b/dになると予測しています。